

# 大阪農業DXに向けたスマート技術の開発・改良

食と農の研究部 園芸・葡萄グループ

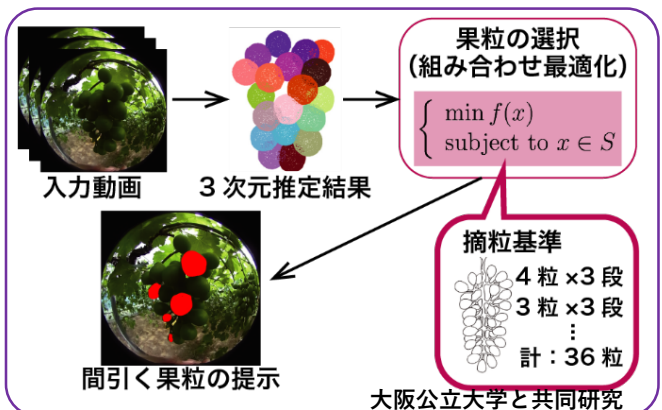
## ■背景と目的

栽培環境・収量・生育データの取得に要する負担を軽減し、データ駆動型農業を展開するために必要な大阪版の農業DX技術を開発・改良します。

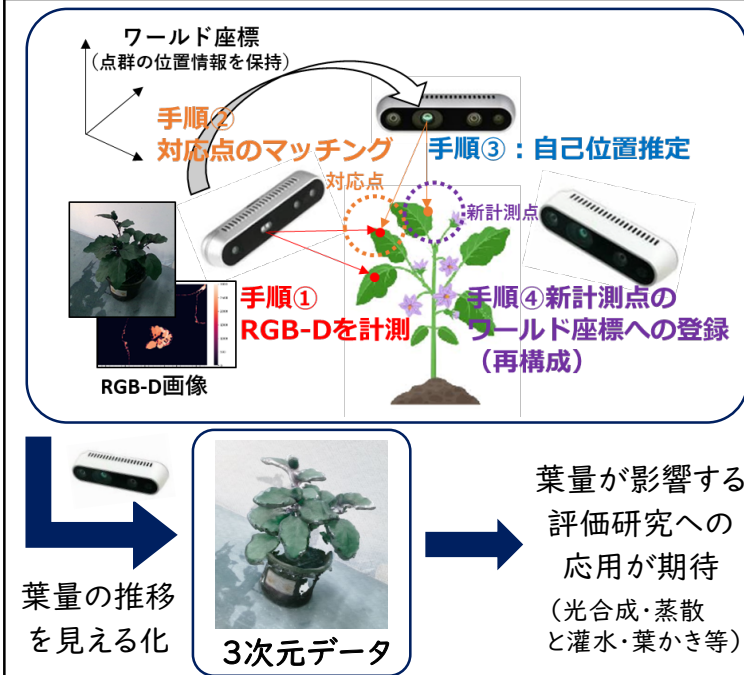
## ■調査方法と結果概要

画像処理技術を農業場面に応用し、ブドウの摘粒作業を補助したり、ナスの葉の量を計測して栽培管理に役立てる技術を開発しています。

### 動画による果房の3次元復元(摘粒作業の支援)



### 特殊画像による葉量の非破壊計測(生育の見える化)



## ■今後の方向性

スマート機器(スマートグラス、UAV、環境モニタリングシステムなど)を活用した農業DXを進め、普及機関、生産者が情報を共有できるネットワークを形成します。栽培・生産状況DBを活用し、現場の課題解決を図ります。

### スマート機器による生産現場の見える化



### 環境・生育・収量・作業データの取得



### 栽培・生産状況DBの構築

